

コンテナ苗木を用いた低密度植栽研修の開催

1 はじめに

合板、集成材、バイオマス燃料等に向けた人工林の伐採が進んでいることから、いかに再造林を行い、資源を造成していくかが課題となっています。

そこで、10月23日（金）、一戸町で造林業者、森林組合、苗木生産者など林業関係者26名が参加し、コンテナ苗木を用いた低密度植栽研修を実施しました。

2 屋内研修（受講研修）

実際の植栽研修に先立ち、株式会社一戸森林資源会議室で林業技術センターの成松主査専門研究員を講師にカラマツコンテナ苗について研修を行いました。一般にコンテナ苗は植栽の時期を選ばないことが利点とされていますが、カラマツの場合7~8月の植栽でも枯れないこと、晩秋期の植栽も可能だが根張りが少なく春先の雪解け時に苗が抜ける心配があるとの説明がありました。

3 屋外研修（植栽体験）

植栽研修は、一戸町有林（区域面積1ha）で行い、コンテナ苗を使った低密度植栽モデル林とするためha当たり1,100本植えとしました。

森林組合作業班の方には植栽器具1本とコンテナ苗15本程度を持ち運びながら植栽してもらい、その他の参加者は2人1組となり植栽

と苗木運搬を交代で実施してもらいました。春先雪解け時の苗の抜けが心配なので、幾分の深植えを心がけ、1人平均で約20本を40分で植栽しました。



4 コンテナ苗植栽を体験しての感想・意見

- ・植栽作業は非常に楽にできる。
- ・ササの根を切断できずコンテナ苗を上手く植栽できない所があった。
→植栽器具の刃で土をくり抜く形状であれば良い。（他県での事例あり）
- ・植栽運搬時、根鉢の土が崩れ落ちてしまう。
→根鉢を紙で巻くようにしてはどうか。
- ・植栽時に、裸苗ほど本数を持ち運べない。
など様々な感想や意見が出されました。

現状ではコンテナ苗の植栽自体が低コストということではありませんが、コンテナ苗の特性を活かせば植栽条件の可能性は広がります。

低密度植栽を含め前後の作業との効率的な組み合わせにより、低コスト施業が定着するよう普及を図りたいと思います。